

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200097		
法人名	有限会社 福寿荘		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	熊本県八代市井揚町2552		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?ICD=4390200097&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?ICD=4390200097&amp;SCD=320</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性を大切に、その人らしく安心して生活できるように支援しております。利用者の思いがけない一面を発見したり様々な事を教えられたりと職員も成長させて頂いております。和気あいあいと笑いあり、時々ケンカありの毎日ですが、楽しい家庭的な雰囲気作りに努め、職員、ご家族、地域の方々と一緒に利用者を支援し共に絆を深めようと努力しております。また、介護理念を職員全員で作成し直し全員が理念に沿った介護ができるように努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①管理者と全職員にて「利用者本位」を主旨とする理念について何度も話し合いを重ね、より分かりやすい自分たちの言葉で表現して実践を図っている。②気づきノートを作成して「できたこと」、「分かったこと」、「できなかったこと」、「わからなかったこと」等を記録し、介護経過には、一人ひとりの日々の過ごし方を細やかに記録し、全職員で共有している。③外部の訪問看護事業所と契約し、24時間相談できる適切な医療体制づくりをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成23年1月に介護理念を職員と共に判りやすい言葉で作直した。その理念を共有して実践につなげていけるように努力中である。	管理者と職員は、「自分達が目指すホームづくり」について話し合いを重ね、礎となる理念「利用者本位」を主旨とする」を自分たちの言葉で分かりやすく表現し、日々のケアの拠りどころとしており、サービスの質向上を目指していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例のもちつき会の開催や校区民体育祭に参加したりしているが、日常的な交流はできてない。	地域的に認知症に対する理解が進んでおらず、日常的な交流には至っていないようだが、回覧板の受け渡しや、ホーム開催の餅つき会では、近所にお手伝いを依頼し、協力を得ている。	認知症への理解を深めるための取り組みを運営推進会議で話し合うこともできるかと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座にボランティアで参加協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告はできているが、サービス向上にはつながっていない。	利用者家族、町内会長、民生委員、老人会長、市役所職員の参加を得て開催されており、活動状況・今後の予定等が報告されている。会議においては外部評価結果を報告し、地域からの理解を得るように努力している。	行事の報告に止まらず、理念の見直し、それに伴うケアの質の向上への職員の頑張っている様子等も報告し、課題があれば解決への助言や協力が得られるような活気ある、効果的な会議を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に参加して頂いており、サービス等の取り組みを伝えたり、色々なアドバイスを頂いたりして、協力関係は出来ている。	職員の退職に伴う人員配置基準等に関する疑問等があった際など、その都度、適切なアドバイスを得られる関係が出来ている。特に災害等での非難場所の提示など連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修によって職員全てが理解出来ているが、言葉による拘束と思われる対応が時折見られる。一人ひとりの尊厳の確保に対する意識や知識がスタッフ間でバラツキがあると思われる。	職員自らが作った理念に「本人の意思を大事にする」「個人個人を尊重する」と明示されており、「自由な暮らしの確保」を大切に支援していることが分る。訪問調査日、いつも通り玄関から出掛ける利用者の後ろに、そっと見守り、後に続く職員の姿が見られ、拘束をしないケアの実践が確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり内部研修を開催し職員が全員学んでおり、虐待がないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し学んでいるが、活用するような機会がなく、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明しているが、利用者や家族が理解・納得しているかは、把握できていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、面会時に意見・要望を聞いたりしているが、利用者の意見・要望は把握できてないと思われる。運営推進会議で外部者への報告をし、全体の会議で職員には報告し運営に反映させている。	馴染みの物の居室への持込や、入所者にとって本当に適切な環境についての話し合いを行う等、利用者本人を思っている職員の思いや取り組みが家族に伝わりにくいことがあるように見受けられた。現在、病院受診は家族にお願いするようになり、家族の面会数も増加した。	職員の思いや、どのようなケアを目指しているか、気づいたこと等、家族にも小まめに報告し、時間をかけてコミュニケーションを続けることで、信頼関係も深まり、意見も出し易くなるのではないかと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を月1回開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けて、反映させるように努めている。	管理者はスタッフからの提案に「やってみよう」を大切に支援している。理念の見直しについて、「私たちの理念ですから、楽しいです」「いい先輩がいますから」という職員の声もあり、意見や提案を出しやすい環境となっていることが確認できた。現在みんなで検討していることは、朝の入浴を昼からの入浴として利用者のゆっくりした時間管理が出来るようにするにはどうしたら良いかを一人ひとりの対応を観察している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員各自が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加を奨励し、参加費を会社で出している。各自が向上心を持って働けるよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム協議会に参加し、勉強会に参加したり、懇親会に参加したりして交流している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を把握して、要望等に耳を傾けながら安心されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力しているが、暮らしを共にする者同士の関係はできていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族にお願いしている。家族と共に本人を支えていく関係を築けるよう努力中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談して、お墓参りやお仏壇参りの支援をおこなったり、面会の少ない家族には、面会を増やすようお願いしたりしている。	面会の親族には「また来てくださいね」と声かけて、馴染みの関係継続への支援をしている。また、家族に場所を聞いて、お墓参りや、仏壇参りなどに出掛けたり、妙見祭りの奴さんに来てもらって演舞を見せてもらうなど、懐かしい場所や、子供の頃を思い出せるような取り組みにも努めていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員がマンツーマンで対応したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族に理美容をお願いし、関係が続く様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話したりして希望や意向の把握に努めている。困難な場合の検討ができてなかったため、これからの意見を出し合い検討していく。	発語が少ない人にも、繰り返し声かけし、僅かな表情の変化から意向を読み取ることに努めている。また、自分の意見が充分に言えない人の目の動きや手の動き等を見逃さず、食事や排せつの対応をしている。尚、それらを気づきノートに記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に相談して、お墓参りやお仏壇参りの支援をおこなったり、面会の少ない家族には、面会を増やすようお願いしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきシートを取り入れて把握に努力中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成されていたが、チーム全体でのモニタリングが出来てなかったのが、現状に即した介護計画に作り直す必要がある。	気づきノートには、出来たこと・分ったこと・出来なかったこと・わからなかったこと等を記録し、介護経過には、一人ひとりの日々の過ごし方の状況が細やかに記録されている。4月からケアマネジャーとして計画を担当する現管理者は、これまでの計画を見直し、チームで集めた情報を参考に、本人の意思に沿った介護計画作成を目指していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきシートを取り入れて把握に努力中である。また、職員間の情報の共有がうまくできていなかったが、改善しつつある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	鍼灸師のリハビリを取り入れたり、歯科の訪問を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握ができてないので、ネットワークを利用し把握して活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に定期受診は家族にお願いしている。受診時に生活状況等の情報を提供しており、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な受診には家族に付き添いを依頼し、緊急時は職員が対応する体制で、家族との関わりを大切にしながら支援している。また、外部の訪問看護事業所と契約し、24時間の相談が可能で、週に1回の健康チェックと、緊急時には、かかりつけ医への状況報告や相談など、適切な医療を受ける環境作りができていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連絡できる体制ができており、職員が相談し、受診や看護が受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりはできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、家族会で報告したが、個別の話し合いが出来てないので、十分に説明できてないと思われる。これから話し合いをしていく。	半分以上の家族が終末期までの利用を希望しており、ホームとしても24時間体制の訪問看護を利用し対応することを考えている。代表者が「重度化や終末期にむけたケア」の研修会に参加し、職員向けの内部研修も実施している。	事業所の方針を明確にし、職員研修を重ねることで、職員の意識も高まり、不安の軽減にも役立つと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員以外は初期対応の訓練を受けているが、今後定期的に訓練し、実践力を身につけるよう努力していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は出来ているが、災害対策はできてない。また、地域との協力体制は出来てない。	夜間の火災を想定し、一人の職員が通報・消火・全員の避難誘導を行なう訓練を実施している。	消防署や消防団の人を、運営推進会議に招き、グループホームの特性、間取り、時間帯による人員体制等を伝え、災害時におけるアドバイスや避難支援などを依頼するなどの働きかけも期待したい。 また、災害時、地域の高齢者家族や、独居老人等を受け入れる避難場所として提案があれば、地域への還元にもなるとと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応出来ている職員もいるが、時折出来ない場面を見受けられる職員もいる。全員ができるように努めていく。	食事中、お茶をこぼした利用者や、そっと寄り、「大丈夫でしたか?」「手を拭きましょう」と声をかけ、食後に「ズボンを替えましょうか?」と小声で優しく促す会話の様子から、個人の人格を尊重した対応が出来ていることが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が自己決定できるような声かけをし働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが把握できていないが、できる人は自分で選んでもらえるよう支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事はしているが、準備や片付けが不十分と思われる。利用者が参加できるように声かけしていく。	朝食は、7時前から9時30分頃まで、起きた時間によって自由に食べることができる。利用者と一緒に、プランタンに植えた、ねぎ・ブロッコリー・レタス・キュウリ等の収穫を楽しみ、系列のスーパーから旬の食材を購入し、家庭的な美味しい食事が提供されている。また、嚥下の状態に応じて、食べ易い形態への配慮も見られた。食介の必要な人数に応じて、職員の勤務時間を変更するなど、細やかな対応も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のチェックや水分量チェックで把握している。水分の少ない人にはゼリーを提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの利用者の排泄パターン、習慣は把握できており、誘導や声かけにて支援しているが、おむつの使用は減っていない。	これまでの生活習慣から、水洗のレバー使用が苦手な人には、赤いテープを巻いて分かりやすく表示したり、発語や訴えが殆ど無い利用者は、目の動きや、僅かな体の動きを見守り、トイレでの排泄を促し、排泄自立に向けた支援が行われていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を提供したり、牛乳を提供したり、薬を提供したりして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、曜日・時間帯はきめているが、利用者の希望やタイミングを取り入れて対応できている。	入浴前から浴室と脱衣室を十分に暖め、着脱もベンチに座ってゆっくりと安全に行なえる環境となっている。現在、午前中に入浴を行っているが、朝、ゆっくりしたい人もおり、一人ひとりの希望も配慮した時間帯の見直しが検討され、ゆっくりと楽しむ入浴支援のための努力が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況を把握して、休息したり、安心して気持ちよく寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解できるように薬のしおりを作成したり、誤薬があった場合は看護師や薬局に確認し症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援したり、カラオケをしたり、調理の下ごしらえをしたり、外食を楽しんだりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事としての外出や近隣への散歩の支援はできているが、本人の希望を把握したり、家族や地域の人々との協力での外出支援は出来てない。	日頃、徘徊が多い利用者の思いを汲んで、生まれ故郷訪問を実現し、10年ぶりに親族との再会を果たした例があり、希望に沿った外出支援への努力が見られた。また、郵便局やスーパーに職員が出掛ける際は、「一緒に行く？」と声をかけ、小さなドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は2人の方が所持されているが、使えるような支援はできてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は出来てない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに生花を飾ったり、季節行事の飾りつけなどを行い、季節感を取り入れているが、リビングに西日が差すので対策が必要と思われる。	木の床は優しく、リビングや廊下も冷暖房が整備され、コーナーには利用者と職員が育てたチューリップや、職員が自宅から持ち込んだクロッカス・梅の花などが飾られ心地良い共用空間となっている。昼食後、ソファで横になる人、テレビを見る人、ちょっと散歩に出かける人、自由な過ごし方を支える環境となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が思い思いに過ごせるように居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋のほとんどが馴染みの物が少ないので、職員がカレンダーを飾ったり誕生日の記念色紙を飾ったりして居心地よく過ごせるように工夫している。	「馴染みの物を活かして、その人らしく過ごせる部屋作り」を、家族に理解してもらうため、家族の同意を得て、職員が古い整理筆筒やマガジラック、花飾り、カレンダー等を持ち込み居室作りの支援を行った部屋があった。個人の部屋らしい、穏やかな雰囲気のある部屋になっており、職員の優しい思いが感じられた。テレビやテーブル、椅子や家族写真が飾られた部屋、ベッドとポータブルトイレのちょっと殺風景な部屋、それぞれであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に表示が少ないので、トイレ等の表示を増やして自立した生活が送れるように、もっと環境整備をしていく。		